

《道徳開き 概略》

令和2年6月16日

令和二年度が始まって早二ヶ月半が過ぎました。4月当初の道徳授業で皆さんに話したいと考えていたのですが、休校でその機会が持てませんでした。

4月7日に松尾中学校第36回入学式が行われました。142名の新入生に向けて話したことの一部を振り返ってみたいと思います。

※全文はホームページに掲載しています。(5月3日掲載)

入学、卒業、進級は、人生の節目だということです。そしてそれは新たな成長の時ということです。

車いすトラベラーの三代達也さんの話をしました。バイク事故で車いす生活をしている方です。《NO RAIN NO RAINBOW》の生き方です。辛いこと、しんどいことを通して人間は成長するという話です。果敢に挑戦する生き方をしてほしいということです。

「人生に無駄なし」という話もしました。

次に話したのは、人は三つのことから学ぶということです。

「人」「本」「旅」です。

人・・・人生は出会い、今までの友人と共に新しい一生の友人をつくってください。(「新入生に贈る言葉」で京都市長様は、「人間浴」を言われました。日光浴、海水浴、森林浴……。人と関わることで元気をもらう。良さや違いを認め合いながら、感性や価値観が磨かれていく。そのことが、京都や日本の未来を担うことになる。

本・・・一冊の本が人生を変えることがあるのです。

休校期間に読めましたか？あとで力になっていきます。

「偉人」「伝記」を是非読んでください。

読書は、学力(成績)にもつながる、土台のしっかりした力がつきま

す。

旅・・・非日常の体験です。全国そして世界に出ていくことが大切です。

からだで感じること、五感の大切さ。(例 琵琶湖一周自転車、
鉄道の旅、山登り等) そこで経験することから学ぶことは多いです。

先行きの見えないなか、「変化に対応する力」と「変化そのものを生み出す
力」が重要です。

人と協働して、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を創っていく
かということが求められています。

そのときに忘れて欲しくないのは、何かができる、ということは良いこと
ではありますが、存在そのものが尊い、生きていることだけで素晴らしい
ということも覚えていてください。

道徳の時間は、小中学校 9 年間で、一年間に 35 時間、義務教育 9 年間で 315
時間あります。315 時間というのは、1 日 24 時間としたら、13 日分です。
中学校は 105 時間です。たったの 4 日分です。

ではそれ以外は道徳ではない、というところではありません。学校での学び
は、すべてが道徳教育とも言えます。教科の授業も、特別活動も、総合的な
学習の時間も道徳教育です。いろんな行事もすべてが道徳教育の一つです。
週に 1 回あるのは、特に道徳の時間という特別に定められた時間で、そこで
生き方を深く、広く考えたり、友人や先生と交流したりするのです。

例えば、「命」「思いやり」「友情」の大切さは、みなさん聞いてわかっている
と思います。それを深く、広く、友人の考えも聞きながら学んでいくの
です。

道徳教育の目標は、一言で言えば、「よりよく生きるため」、と言えます。
皆さんが幸せになるためです。いや、「今ここ」で幸せを実感するためです。

コロナ感染症による休校等で考えさせられたことも多いのではと思います。

「あたりまえ」の対義語は何でしょうか？

「有り難い」(ありがとう)です。

学校に来ること、勉強を教えてもらえること、友達と学校でいること、旅
行にけること、・・・

この、「有り難い」を心に留めておいて欲しいと思います。

このような時代状況の中で、どう生きるか、よりよく生きるとは、成長するとは、など改めて考えてほしいということです。答はすぐに出ないかもしれません。

「上を向いて歩こう」という坂本九さんの名曲があります。
今こそ、世代を超えて人と協働して、明るい未来を信じて生きていきたい
と思います。

先程の、《NO RAIN NO RAINBOW》です！

これから日本は、どうなっていくのでしょうか？

皆さんは、10 年経てば、社会に出る人も多いと思います。家族や子供のためにも、日本や世界のために何ができるかを考える人になって欲しいと願っています。

大人の我々も同じです。50 歳でも 60 歳でも、年齢は関係ありません。
「何かを始めるのに遅いことはないのです！」

「松中オーケストラ」という生徒会スローガンは素敵ですね。
それぞれの個性が化学反応を起こして、いいものが生まれる、そこから素晴らしいハーモニーが生まれます。

そんなことも意識しながら、次の動画も見て、一步一步前を向いて進んで行きましょう！（コロナ後の生き方《日本赤十字社》3分視聴）

最後に、「私たちは微力であっても、無力じゃない」です。

松中生のさらなる飛躍を願っています！共に頑張りましょう！！

京都市立松尾中学校 校長 鈴木 克治